『100 年史』こぼれ話～桜新町に住んだ人々　その1

山岡　靖さん（当会アドバイザー、「東京の軽井沢－桜新町」*著者、『100 年史』共同執筆者）

人が住んで家を建てて町はでき上がっていきます。

今回は、大正時代から新町住宅地に住んできた家族のことを紹介して、当時のまち・すまい・生活の様子を垣間見てみようと思います。

分譲をした東京信託㈱の営業報告書から大正 2 年の売出し時の反響、割賦払いの状況がわかりました。土地の大半は 2 回の売出しで売れ、年月賦の土地代金は、昭和 7 年までで完納されました。残念ながら建物がいつ頃建てられたかという情報はないのですが、概ね大正 2（1913）年から昭和 7（1932）年までの 20 年間で町が形成されていったのでしょう。購入者名簿が残っていませんでしたので、当時の土地登記簿から誰が住んだのかを調べました。『100 年史』にも書いたように、当初多くの人は、別宅（別荘）として買い求めていたようです。その面々は、日本橋の呉服店、歌舞伎役者、東京市の役人、甲州財閥、地方の百貨店、画家、退役軍人、製薬会社など様々でした。

今回ご紹介するU家は、当初から近年までお住まいになられた典型的なご家族です。三代目のＵＴさんからファミリーヒストリーのお話をうかがい綴ってみました。

初代　初代の祖父ＵＫさんが土地を購入したのは、大正 2 年の当初の売出し時でした。他とは違いすぐに所有権移転がされていたので、分割払いでなく現金購入と分かります。坪 5 円、300 坪の土地で 1,500 円だったそうです。

ＵＫさんは、栃木県出身、下谷区練塀町（今の台東区秋葉原周辺）で不動産業を営んでいました。職人に借家を提供するアパート経営もしていたそうです。新しいもの好きで、いつも洋服を着ていて、下谷の家には昭和初期から腰掛式水洗便器があったそうです。

土地購入の目的は、別宅としての利用でした。そのため、家作は 2 間（6 畳と 8 畳）、建坪 18 坪の寄棟平屋建ての和風小住宅でした。購入してすぐに建築されました。

商売柄、東京郊外の土地の値上がりに目を付けていたのかもしれません。（当時、「渋谷の土地が急騰」との記事があります。）また、学生を住まわせたこともあったそうです。

大工は、知合いの棟梁を栃木県から連れてきて、和室の造作等に手間をかけていました。　**以下次号に続く。**

U邸　正面が 2 間続きの当初建築部分
2014 年　山岡靖撮影

*山岡靖さんは、『郊外住宅地の系譜』（山口廣編、1987 年、鹿島出版会）の中の「東京の軽井沢―桜新町」を執筆されました。学生時代に通学の目黒駅～成城学園前駅間のバスの車窓からご覧になった桜新町の街並みに興味をもち、まとめられた卒業論文を元に書かれたものです。

●さくらフォーラムから

・ニュースレター（6 月発行予定号）は、発行を中止しました。

・桜並木でクビアカツヤカミキリ（外来害虫）の調査を実施しました。今のところ、被害はないようです。

・「深沢・桜新町 100 年史」（定価 500 円）を販売しています。（A5 版、全カラー、表紙共 72 ページ）
新町住宅地の分譲開始（1913 年）前夜からの深沢・桜新町の 100 年をまとめた小冊子です。

・会員募集中：この地域の景観・環境・みどりなどに関心のおありの方は、ぜひ、ご参加ください。

発行元：深沢・桜新町さくらフォーラム　http://sakura-forum.jimdo.com/　fb
〒158-0081 世田谷区深沢 8-19-6 フェリックス気付　電話：03(3702)3274　FAX：03(3702)3219
©深沢・桜新町さくらフォーラム、2020
世田谷区地域の絆ネットワーク支援事業補助金を受けて作成しました。

さくら・さくら
ニュースレター

深沢・桜新町 さくらフォーラム

No.39 2020年9月

深沢・桜新町さくらフォーラムは、地域の風景づくりの活動に取り組む市民団体です。http://sakura-forum.jimdo.com/、fb

2 面～3 面：呑川と呑川親水公園、4 面：『100 年史』こぼれ話、さくらフォーラムから

呑川は、どこからどこまで？
呑川親水公園は、どんなところ？
いつできたの？
桜は、いつ植えられたの？
今号は、呑川特集です。

呑川親水公園
呑川緑道は、
世田谷区の
地域風景資産に
選定されています。

地域風景資産のプレート
親水公園両端の橋（新桜橋・呑川橋）の欄干についています。
QR コードで説明が表示されます。

呑川親水公園の四季

春　爛漫

夏　緑陰

秋　紅衣

冬　銀寂

写真撮影　（タイトル共）
仁木勇夫さん（当会元会員）

呑川親水公園の
カルガモ